

(2) **精練** せいれん 購入した綿糸なまいとを生糸というが、この生糸を精練するところから染色せんしよくと織りおが始まる。精練とは、生糸についている油をきれいにとるため、1時間くらい煮たあと、よく水洗いをする。染まりをよくするためである。

(3) **染色** ほ 精練して干した糸を人差指ほどの棒に通して、藍がめの中に入れ、上下にしなが、糸をかえしながら藍液に浸す。

さらに竹棒を通し、竹棒と棒をうまく使って糸を一方にねじってしぼる。これを何回もくり返す。

(4) **水洗い** 染めた糸は、水でさっとすすぐ程度に水洗いをする。この水は水道ではなくて井戸の水を使う。

(5) **乾燥** たけざお 水洗いをした糸を竹竿に通して乾燥させる。天日乾燥てんぴを主とする。この乾燥で緯糸よこいとはできあがる。

(6) **糊付け** たていと 経糸に糊付けをする。丈夫にするためである。生麩しょうふを薄めた糊液を作り、その中を糸をくぐす。湿気しっけがないようにからからになるよう完全に乾燥させる。これが経糸たていとである。

(7) **機織りの準備** はたお

① 経糸巻き 経糸を古くは木のわく、機械織りになってからはボビンに巻きなおす。

② 整経 せいけい 綯柄しまがらによって、経糸の糸の配列をきめる。

③ 経巻き 経糸をそろえ、機ぐさはたという板をはさんで巻いていき、機織り道具にかけられるようにする。機械織りになってからは機ぐさは必要なくなっている。

④ 綜統・箴通し そうこう おさとお 綜統に順序正しく経糸を通す。箴によって経糸を整え、経糸に通した緯糸を打ちつける。

⑤ 緯糸の管巻き くだま 糊付けをしないで乾燥させた緯糸は管くだまに巻いて杼ひに入れる。杼は中管なかくだに巻いた緯糸の間を通す木製の舟型ふなのものである。

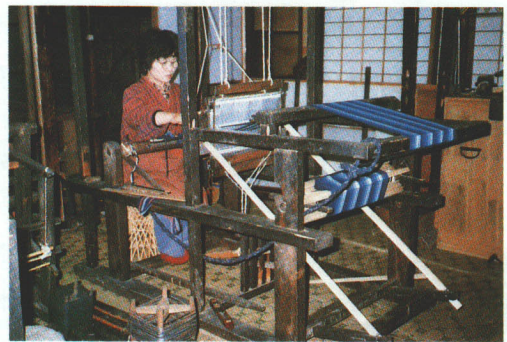
(8) **機織り** はたお いよいよ織る。綯ひらは経糸の並べ方によっていろいろできてくる。

緯糸は平織りの場合、すべて紺である。

(9) **機下しと検査** はたおろ 織りあがった布をよく検査してはずす。



染 色



機 織 り

メ 毛